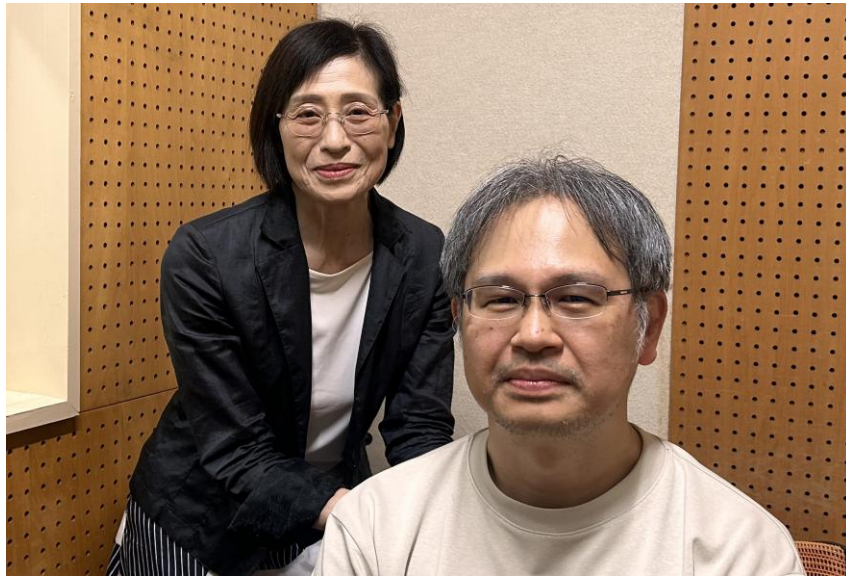


MBC ラジオ『ここが聞きたい！ドクタートーク』2026.9.5

第 1218 回放送分『肝臓がん』1 回目

ゲスト：川崎洋太ドクター



二見いすず

今月のドクタートークは「肝臓がん」をテーマにお送りいたします。
お話は、鹿児島県医師会 川崎洋太（かわさき ようた）ドクターです。
川崎さん、よろしくお願いいたします。

川崎洋太Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

今日はまず肝臓の機能と役割について教えてください。

川崎洋太Dr.

肝臓は体の中で一番大きな臓器で、幅は 25～30 センチほどもあります。
重さは成人で 1 キロから 1.5 キロほど、体重のおよそ 50 分の 1 を占めています。

二見いすず

そんなに大きいんですね。

川崎洋太Dr.

はい。肝臓には主に 3 つの役割があります。

1 つ目が代謝です。胃や腸で消化吸収された栄養素を体で使えるような形にして、
貯蔵し、必要に応じてそれらを分解してエネルギーなどを作りだします。
肝臓で代謝された物質は血液をめぐって、全身に送り出されるのですが、
このように栄養素を体が利用しやすい形に分解・合成する働きを代謝といいます。

二見いすず

代謝ですね。2つ目はどんな役割でしょうか？

川崎洋太Dr.

2つ目は胆汁の生成です。胆汁内の胆汁酸という成分が脂肪を細かく乳化することで、脂肪の消化吸収を手助けするため、非常に大切な役割を担っています。

そして3つ目の役割が解毒です。

アルコールや薬物、アンモニアなどの有害物質を無毒化してくれます。これは尿や便とともに体の外へ排出されます。このように肝臓はとても大切な臓器なのですが、肝臓の細胞が壊れた状態、つまり肝炎を起こしてしまうこともあります。

二見いすず

肝炎はどのような原因でなるのでしょうか？

川崎洋太Dr.

原因として最も多いのがウイルスです。

C型肝炎やB型肝炎という病名をお聞きになった方も多いと思います。

そしてみなさんよくご存知のアルコールも原因になります。

さらに今増えているのが脂肪肝です。

二見いすず

ウイルス、アルコール、そして脂肪肝ですね。

川崎洋太Dr.

はい。脂肪肝の中でも、肝臓に炎症が起きてしまっているタイプは、肝硬変、そして肝がんへと進んでいくことがあります。脂肪肝は自覚症状がほとんどないので、健康診断で指摘された時点で、それ以上悪くならないように生活習慣を見直すことが非常に重要です。

二見いすず

脂肪肝は、やはり生活習慣からくるものですか？

川崎洋太Dr.

そうですね。その中でも特に運動をするよう強く勧めています。

二見いすず

通常ですと人間ドックなどで年に1回の検査をする人が多いと思いますが、検査の頻度としてはそれで大丈夫でしょうか？

川崎洋太Dr.

一般の方はそれでいいですが、異常のある方はその原因を探る必要があるので、異常があった場合は超音波検査などを受けるようにしてください。

二見いすず

よく分かりました。

今月は肝臓がんについてお送りいたします。

お話は鹿児島県医師会 川崎洋太ドクターでした。

川崎さん、ありがとうございました。

川崎洋太Dr.

ありがとうございました。